

I 研究の内容

1 研究内容について

○各教科等の特性を生かした「言語活動の充実」のための理論研究

○授業実践

各教科等のねらい，特性に即して言語活動を考える

思考力・判断力・表現力等を育てる言語活動を取り入れる

○児童の実態分析と指導法の改善

山梨県学力把握調査（3,5年），全国学力学習状況調査（6年）の結果分析から，本校児童の実態把握をする。その結果から，授業づくりの視点や指導法の共通理解を図る。

2 研究方法について

- ・授業実践を通して研究を深める。
- ・ブロックごと1本の授業研究をもつ。
- ・[低学年部会][高学年部会]の2ブロックを基本にして，授業研究を行う。
- ・部会研究の内容を交流し合い，共通理解を持つ。
- ・一人一実践の取り組みとして，全学年の授業を公開し合う。

3 具体的実践

(1) 理論研究

「言語活動の充実に向けて」	講師	宮澤洋一教頭
「学級力向上プロジェクトについて」	講師	榊原俊二校長
「山梨市学力向上の取組について」	講師	中村 指導主事
「教室の中の気になる子どもたちの理解と支援」	講師	飯田亜佳先生（学校カウンセラー）

(2) 研究授業

第1学年	算数科	「ビルをつくろう」	授業者	廣瀬明子教諭
指導助言	峡東教育事務所	主幹指導主事	小林俊彦	指導主事
第4学年	算数科	「広さを調べよう」	授業者	岡村理恵教諭
指導助言	峡東教育事務所	指導主事	霜村文晴	指導主事

(3) 授業実践

第1学年	図画工作科	「いいとこいっぱいみつけよう」	小椋恵美教諭
------	-------	-----------------	--------

第2学年	英語科「はらぺこあおむしの本を読もう」	今澤比呂樹教諭
第2学年	算数科「あたらしい計算を考えよう」	丸山なつみ教諭
第3学年	学級活動「もっといいクラスにするために」	高野恵美子教諭
第5学年	算数科「分数をもっと知ろう」	深澤真人教諭
第6学年	社会科「戦争から平和への歩みを見直そう」	飯島裕明教諭
第6学年	家庭科「きれいにしようクリーン大作戦」	窪田真由美教諭
すみれ学級	自立活動「お話名人になろう」	川崎幸江教諭
たんぼぼ学級	自立活動「お買い物遊びをしよう」	窪川純一朗教諭
日本語指導	国語科「あつまれ、冬のことば」	海沼潤子教諭

II 成果と課題

- ◇研究主題は、本校児童の実態に妥当なものであった。昨年度までの研究を継続しながら、言語活動の充実をめざした研究ができた。言語活動を行うことが目的ではなく、学習目標を達成するための言語活動を充実させることが、確かな学力を身につけることにつながっていく。改めて、確認できた。
- ◇本時の目標を達成するためには、どのような言語活動をどう仕組んだら効果的かを、授業者が考え、実践していった。互いの授業を見ることで、次の授業へとつなげることができた。
- ◇学習目標を達成するためには、授業における「ねらいの明確化」が重要であることがわかった。児童側の視点に立ったねらいを、わかりやすい言葉で、また提示の仕方を工夫することで、授業のゴールを見通せる。そのような、提示の仕方を意識するようになった。
- ◆思考力・判断力・表現力を育成する観点から、「書く」活動を取り入れ、自分の考えを説明する指導を行っている。つなぎの言葉「まず・つぎに・だから」を用いて説明する方法を発達段階や実態に応じて指導しているが、まだ十分に使えていない。今後も引き続いて、指導を継続していく必要がある。
- ◆明確なめあてを設定した授業づくりを行うことで、児童自身が学習内容の振り返りを行うことが可能となる。めあてに沿ったより具体的な言葉となるように、発達段階に即した振り返りの視点を提示しながら、継続して指導していきたい。
- ◆本校では3学年が35人以上（その内2学年はアクティブ加配）である。単元や学習内容により、少人数指導やTT指導を取り入れ、学習形態の工夫を行っている。個々の児童の見取りを適切に行い、どう授業に生かしていくのか。自力解決や発言の機会の確保、支援を必要とする児童への手だて等、課題が残る。

III 成果物

- 1 研究授業学習授業案及び資料
- 2 授業実践授業案

(研究主任 廣瀬明子)